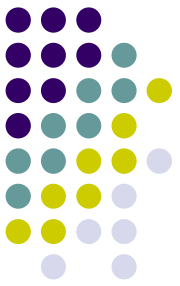


# 人文学の目指すもの

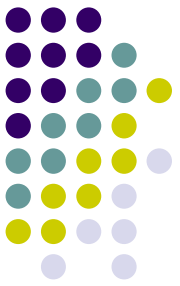
2008年1月25日

樺山 紘一



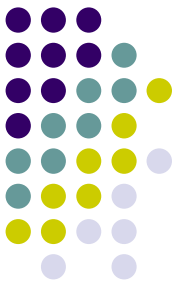
# 人文学の衰退か覚醒か

## 当事者たちの意識



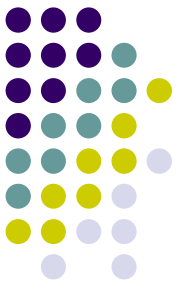
# 現状認識 1

## 教育の枠組み



# 教育制度としての伝統的 枠組みの消失

「哲学」も「歴史」もなくなる



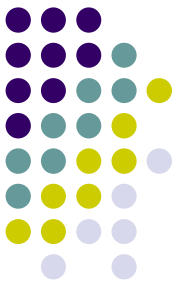
# 現状認識 2

## 研究のかたち



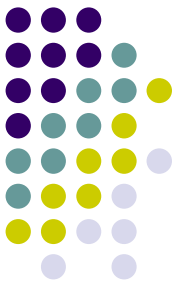
# 「哲史文」という区分

## 人文学研究者の帰属意識



細分固定された研究主題

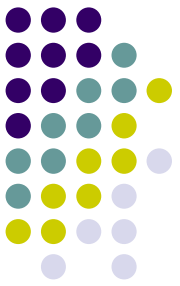
専門分化した研究論文



斬新な事例もある

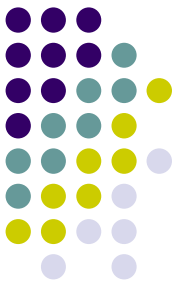
流行もあれば、  
イノベーションもある





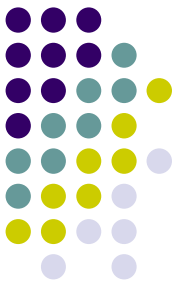
哲学の分野では

生命倫理、新宗教



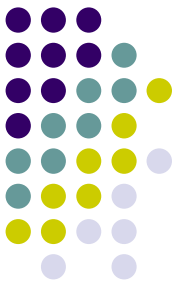
歴史の分野では

イスラム世界史、中世社会史

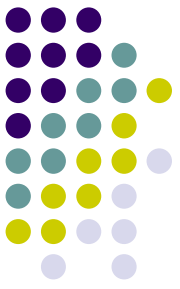


文学の分野では

源氏物語、批評と翻訳



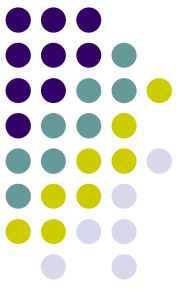
# 基礎学としての人文学



# ヨーロッパの自由七科

文法、論理学、修辞学

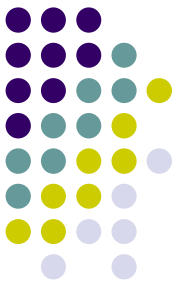
音楽、幾何学、天文学、算術



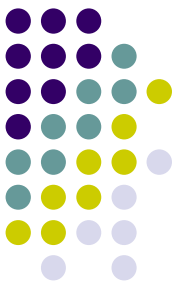
# 中国の四書五經

論語、孟子、中庸、大学

書經、詩經、易經、礼記、春秋



# 思考・学術上の 方法基礎として



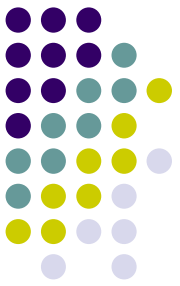
# 高等教育・社会教育上の 基礎教養

古典を読む教養

国連大学の高等教育シンポジウムから

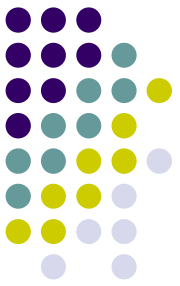
(2007年10月)



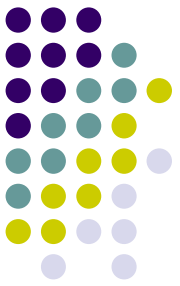


# 人文学の社会的貢献

社会的実効性を求める



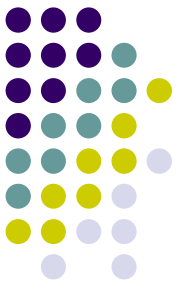
# 政策や機構の形成に かかわる貢献



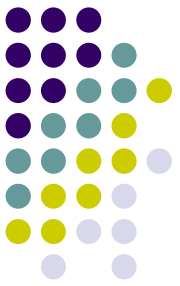
# 「人文・社会科学振興 プロジェクト研究事業」 (日本学術振興会) の成果



# 「日韓人文政策フォーラム」 の成果



# 学術上の理論的統合力

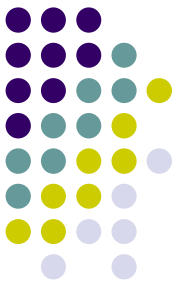


# 人文学のキー概念

精神価値

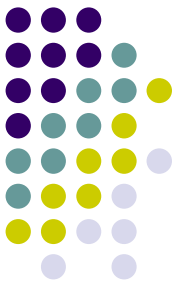
歴史時間

言語表現(芸術表現)



人文学としての連携・統合力

学的諸領域を組織する力

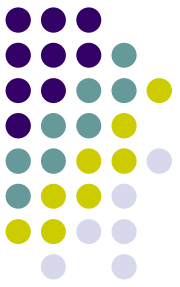


個人的な信条について一言

世界の知的領有と知識に  
ついてのメタ知識



# 「作られたもの」と「翻訳学」

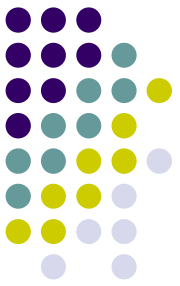


G. ヴィーコ  
(1668-1744)



W. デイルタイ  
(1833-1911)

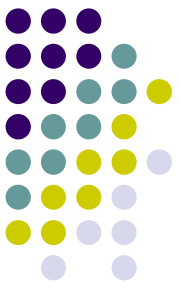




おわりに

人文学のトリポッド

「教養教育」と「社会貢献」と「理論統合」



## (付) 人文学の研究スタイルにおける革新

1. 共同研究は、個人研究優位の人文学の刷新・発展に資するか
2. 人文学にとって、国際化・グローバル化は起爆力を発揮できるか